

| | | | |
|--|-----------------------------|----------------|-----|
| 科目名 (Subject) | 経営組織論 (Organization Theory) | | |
| 単位数 (Credits) | 2 単位 | 開講時期 | 後 期 |
| 担当教員名 (Name) | 加藤 敬太 (Keita Kato) | 研究室番号 (Office) | 311 |
| Office Hours | 初回のオリエンテーション時にお知らせします。 | | |
| <p>1. 授業目的・方法 (Course objective and method) 本授業の目的は、経営組織論の有名な古典を輪読し理解することである。最終目標は、博士前期課程の院生として、経営組織論の基本の修得はもちろん、実際に古典となった学説に触れることで深い理解力と応用力を身に付けることとする。 授業方法は、毎回、予習・報告・議論・解説の順に進めていく。予習課題として、各回において指定テキストの決められた箇所を精読しA4用紙1枚以上のレポートにまとめてくることを求める。各回の授業は、この予習を前提として進められる。また報告担当者は、別途、報告用のレジメを作成し報告することも求められる。</p> <p>2. 授業内容 (Course contents) 第1週：オリエンテーション 第2週～第4週：Barnard (1938) 第5週～第7週：March and Simon (1993) 第8週～第10週：Perrow (1972) 第11週～第13週：Weick (1995) 第14週：総括① 第15週：総括②</p> <p>3. 使用教材 (Teaching materials) (使用順) Barnard, C. I. (1938) <i>The Functions of the Executive</i>, Cambridge, Mass.: Harvard University Press. (山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社, 1968年)。 March J. G. and H. Simon (1993) <i>Organizations</i>, 2d ed., Cambridge, Mass.: Blackwell Published. (高橋伸夫訳『オーガニゼーションズ—現代組織論の原典—』ダイヤモンド社, 2014年)。 Perrow, C. (1972) <i>Complex Organizations: A Critical Essay</i>, Glenview, Ill.: Foresman and Company. (佐藤慶幸訳『現代組織論批判』早稲田大学出版部, 1978年) Weick, K. E. (1995) <i>Sensemaking in Organizations</i>, Thousand Oaks: Sage. (遠田雄志・西本直人訳『センスメイキング イン オーガニゼーションズ』文真堂, 2001年)。</p> <p>※Perrow (1972) 以外は絶版ではない。入手方法は初回時に示す。</p> <p>4. 成績評価の方法 (Grading) 予習レポートの内容 (40%)、報告内容 (40%)、授業への参加度 (20%)</p> <p>5. 成績評価の基準 (Grading Criteria) レポート・報告・発言の内容により総合的に判断する。</p> <p>6. 履修上の注意事項 (Remarks) 本授業は、学部レベルの経営学の知識があることが前提となっているので注意を要する。経営組織論の学部レベルの基本的理論の解説は一切行わない。すでに学部レベルの知識を習得済の院生の受講を想定し、初回から大学院レベルの授業を展開していく。 さらに、毎回のリーディングの分量も相当なものとなるので、その覚悟のある受講生の参加をお願いする。本授業を通じて、経営学の本格的な研究に取り組む意欲のある院生に参加していただきたい。 なお、受講者と相談のうえ、リーディングのテキストを変更することもありうる。</p> | | | |